

市民力による介護保険の検証を

「介護の社会化」を目指して導入されたはずの介護保険は、「持続可能な制度」とするために「介護給付の適正化」として在宅介護を家族が担うことが求められ、生活支援も打ち切られている……。2009年度介護報酬改定を機に検証を、という趣旨のもと市民福祉サポートセンターの主催により、9月20日(土)、NO！寝たきりデー 2008「しっかりしなきゃ！介護保険」が法政大学スカイホール(東京都千代田区)において開催され、約200人が参加した。

まず重元博道氏(厚生労働省老健局老人保健課課長補佐)が介護保険、介護事業者の現状とこれからの高齢者像、介護報酬改定に向けての課題を解説。訪問看護に関しては来年の報酬改定で利用しやすい仕組みをつくりたいとの意向を語った。

シンポジウムでは小規模多機能施設ほっと・ハウス・豊玉などを運営する沖山一雄氏が、東京都練馬区の介護サービス事業者連絡協議会で、第3期の介護保険事業計画の勉強会からはじめ、第4期介護保険事業



計画についての要望書を提出したと発表し、井上宮子氏(介護家族を地域で支える会代表)は介護者が情報をしっかり保持して、情報交換ができ、介護家族がリフレッシュできるような場所を各自治体でつくってほしいと主張した。最後に石毛えい子氏(市民福祉サポートセンター運営委員会代表)が「地域支援事業のウォッチを！」と締めた。